履　歴　書

氏名（ふりがな） 熊本　太郎（くまもと　たろう）

生年月日 1970年１月11日

自宅住所 〒8XX-0XXX　○○県○○市○○町1-23-4-567

 TEL/FAX：0XX-123-4567

勤務先・現職 ○○大学大学院○○研究科・助教

　 ○○大学大学院○○研究科　○○学部門　○○学分野

 〒8XX-0XXX　○○県○○市○○町8-9

 TEL：0XX-321-4567　　FAX：0XX-321-1234

 E-mail　taro@xyz.abc.ne.jp

学　　歴 1988年３月31日 ○○高等学校　卒業

 1988年４月１日 ○○大学理学部　入学

 1992年３月25日 同　卒業

 1992年４月１日 ○○大学大学院○○研究科　入学

 （○○学専攻）

 1994年３月24日 同　修了（修士（○○学））

 1994年４月１日 ○○大学大学院○○研究科　入学

 （○○学専攻）

 1997年３月24日 同　修了（博士（○○学））

職　　歴 1997年４月１日 ○○研究所・非常勤研究員

 2000年４月１日 米国NIHリサーチアソシエイト（Dr. ○○研究室）

 2005年７月16日 ○○大学大学院○○研究科・助教

 現在に至る

学　　位 博士(○○学)（1997年３月　○○大学）

免許および資格 1994年５月10日 ○○免許（登録第11111号）

 2000年10月１日 日本○○学会認定　専門医 111号

学会活動等 日本○○学会（８年間、平成２０年より評議員)、

 日本△△学会（６年間、平成２３年より理事）

 日本□□学会（４年間）

賞　　罰 2009年12月３日 第10回日本xx学会賞受賞

業績目録

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーライン、論文のcorresponding authorには＊を付すこと。また投稿中論文は記載しないこと。印刷中の論文については正式な採択通知書のコピーを同封できる場合に限って記載が認められる。業績目録作成にあたって以下の業績等のサンプル記入例を参考にすること。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。

Ⅰ．英文原著論文

 1. Oe Y., Honjo E., Kuhonji T, Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. Shirakawa K. & Kurokami T.\*

 The cell-matrix interaction via CD44 ... PKC activation.

 J. Cell Biol., in press.

 2. Honjo J.\* & Kumamoto T.

 Progression of tumor cells ... the H-Ras oncogenic signaling.

 Proc. Natl. Acad. Sci. USA 108, 9-10 (2011)

 3. Kumamoto T.,\* Honjo J., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.

 Signal transduction of ... in the cell differentiation.

 Nature 443, 456-789 (2006)

Ⅱ. Ⅱ．英文総説

 1. Honjo J., Kumamoto T.\* & Kurokami T.

 Regulation of cellular proteins ... via ubiquitin-proteasome.

 N. Engl. J. Med., 345, 9-10 (2001)

2. Kumamoto T.\*

 Stress response and transcriptional regulation … in neuronal cells.

 Nat. Rev. Mol. Cell Biol., 1, 23-45 (2000)

Ⅲ．邦文原著論文

　 1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の発現効率の制御に関する研究.

 生化学 85, 124-132, 2013

Ⅳ．邦文総説

（注：全国規模の学会誌などに、申請者の研究成果を中心に当該分野の現況などについてレビュー

した、特に重要なもの等に限定して記載のこと。）

　 1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の研究についての展望.

 生化学 84, 985-993, 2012

Ⅴ．著書

 1 Oe Y., Kuhonji T, Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. & Kurokami T.

 Alzheimer's disease and stress gene expression.

 *In* Alzheimer's Disease, Annals of Neuroscience, Vol. 123

 (eds., Honjo J., Oshiro G. & Shirakawa K.), Kumamoto Academy of Medical Sciences,

 Kumamoto, p. 456-789 (2010)

2. 熊本太郎

 組み換えタンパク質

新医科学実験講座23 (医科学会 本荘次郎 編), 化学同人 (熊本) p. 456-789 (2009)

Ⅵ．招待講演（国際学会）

 1. Kumamoto T.

 Regulation of human cells ... via autophagy.

 The 10th International Conference on Human ... (2011)

Ⅶ．特別講演・教育講演・指名講演など（国内学会）

（注：国際学会や全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。）

 1. 熊本太郎, 本荘次郎

 フォスファターゼと... 活性化機構

 第123回 生物学シンポジウム(2006)

Ⅷ.　シンポジウム・ワークショップ発表など（国内学会）

（注：国際学会や全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。）

 1. 熊本太郎, 本荘次郎

 フォスファターゼと... 活性化機構

 第123回 生物学シンポジウム(2006)

Ⅸ.　競争的研究資金の獲得状況

（注：平成22～26年度（５年間）に獲得した競争的研究資金について、研究代表者・分担者分

をそれぞれ文部科学省科学研究費補助金、その他の省庁研究補助金、財団等補助金別に配分資

金（直接経費）を記載のこと。22年度を跨ぐ研究費については、年度毎の経費を追記すること。

なお、研究分担者分については分担者への実際の配分額を記すこと。また、間接経費の交付が

ある場合には、その配分額を明記すること。）

 研究代表者分

 文部科学省科学研究費

 1. 平成26〜24年度　基盤研究(A)　30,000千円（間接経費9,000千円）

 神経変性疾患と ... 遺伝子治療に関する研究

2.平成22〜20年度　基盤研究(B)　15,000千円（間接経費4,500千円）

（平成22年度 5,000千円、21年度 5,000千円、20年度 5,000千円）

 タンパク質リン酸化と ... 活性化機構

 その他の省庁研究補助金

 1. 平成23〜22年度　厚生労働省科学研究費

 がん克服戦略研究事業　50,000千円

 細胞のイメージングと ... 分子標的治療

 財団等補助金

 1. 平成21年度　特定研究助成金　2,000千円

 細胞ストレスと...薬剤耐性化に関する研究

 研究分担者分

 文部科学省科学研究費

 1. 平成26〜24年度　基盤研究(B)　1,000千円（間接経費300千円）

 幹細胞 ... の分子機構に関する研究（研究代表者　黒髪太郎）

 2. 平成23〜21年度　基盤研究(B)　500千円

 低酸素応答における ... に関する研究（研究代表者　大江良子）

 その他の省庁研究補助金

 1. 平成21〜19年度　厚生労働省科学研究費

 がん克服戦略研究事業　6,000千円

（平成21年度 2,000千円、20年度 2,000千円、19年度 2,000千円）

 多剤耐性がん細胞の ... に関する研究（研究代表者　黒髪太郎）

 財団等補助金

 1. 平成23年度　日本糖尿病財団研究助成金　500千円

 細胞ストレスに関する研究（研究代表者　黒髪太郎）

主要研究論文

（原則として原著論文が望ましいが、総説を含めることもできる。総説を記載した場合は、明記

すること。合計２０編以内に限定して記載すること。）

○最近５カ年の業績

 1. Oe Y., Honjo E., Kuhonji T, Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. Shirakawa K. & Kurokami T.\*

 The cell-matrix interaction via CD44 is ... PKC activation.

 J. Cell Biol., in press.

2. Honjo J.\* & Kumamoto T.

 Progression of tumor cells ... in H-Ras oncogenic signaling.

 Proc. Natl. Acad. Sci. USA 108, 9-10 (2011)

3. Kumamoto T.,\* Honjo E., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.

 Signal transduction of ... in the cell differentiation.

 Nature 467, 456-789 (2010)

　○それ以前の主要な業績

 1. Honjo J., Kumamoto T.\* & Kurokami T.

 Regulation of cellular proteins ... via ubiquitin-proteasome.

 N. Engl. J. Med., 345, 9-10 (2001)

 2. Kumamoto T.\*

 Stress response and transcriptional regulation … in neuronal cells.

 Nat. Rev. Mol. Cell Biol., 1, 23-45 (2000)　英文総説

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーラインを引き、論文のcorresponding authorには＊を付すこと。投稿中論文は記載しないこと。印刷中の論文については、正式な採択通知書のコピーを同封できる場合に限って記載が認められる。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。

研究・教育に関する業績の概要

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名：熊本　太郎

現在までの業績をＡ４に１枚、1200字以内で記載すること。

研究･教育に対する抱負

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名：熊本　太郎

当該分野応募に関して、現在お持ちの抱負をＡ４に１枚、1200字以内で記載すること。